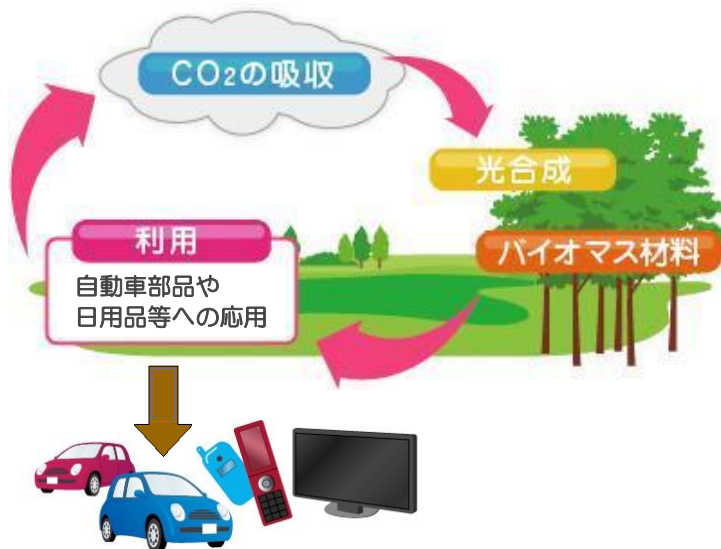


## グリーンバイオ・プロジェクト推進事業

### 1. 事業の概要

製材端材等の県内に豊富に存在する未利用木質バイオマスから高機能で付加価値の高い新素材であるセルロースナノファイバーや高規格木粉を製造する技術の確立、県内の企業や大学等研究機関による製品化技術・用途開発を支援しています。



(これまでの主な取組)

○バイオマス原料集積拠点の整備

・真庭バイオマス集積基地

※製紙原料用チップ・バイオマス発電用燃料等を製造



○産学官連携によるバイオマス利活用技術の開発

- ・ウッドプラスチック製軽量自動車内装材（リヤシェルフ・トランクサイドトリム等）

※プラスチックに木を混ぜることで、高強度・低価格を実現（木質 40～50%）  
高剛性・発泡技術を確立し、20%軽量化を実現（特許申請）  
軽量化リヤシェルフは、マツダデミオ・三菱ギャランに採用



リヤシェルフ

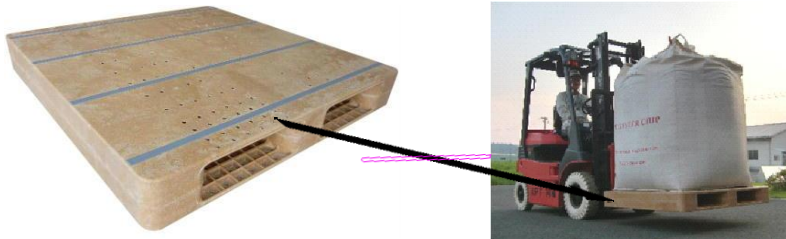
トランクサイドトリム

- ・ウッドプラスチック製流通資材（汎用型パレット）

※木製のようなトゲ・ササクレがなく積荷に優しく、プラスチック製に比べてたわみづらく丈夫で安価（木質 50%）

ウッドプラスチックの流動解析技術を確立し、新製品投入に係るコストと時間を大幅削減

冷凍倉庫大手、パレットレンタル大手が採用



- ・ウッドプラスチック製日用品（うちわ、コーム等）

※加工しやすいウッドプラスチック材料を開発し、プラスチック製品の一部を木で置き換え（木質～50%）

加工しにくいという従来の問題点を改善したウッドプラスチックを開発  
木材の用途を、これまでの建築業から製造業に広く展開する取組

うちわは祭りや温泉組合で、コームは全国のホテルやゴルフ場で採用



ウッドプラスチック材料



うちわ



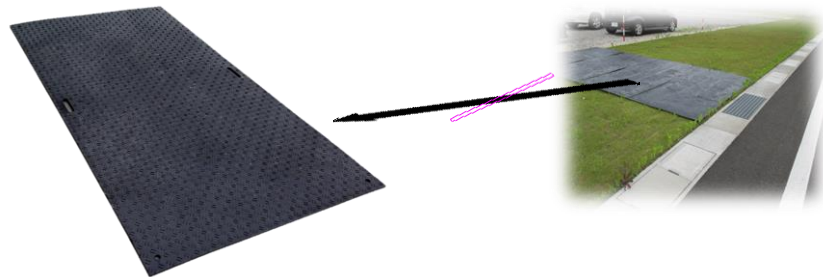
コーム

- ウッドプラスチック製コンテナ（試作）  
※射出成形用途のウッドプラスチック材料を改良（耐衝撃性・流動性）してより大型の射出成形品を試作（木質～20%）



ウッドプラスチック製コンテナ

- ウッドプラスチック製敷き板（養生板）  
※同サイズの鉄板（500kg）に対して40kgと軽量（木質20%）  
木質繊維で強化されたプラスチックを高圧プレスで加工、高強度



ウッドプラスチック製敷き板

- ・未利用木質バイオマスを活用したキノコ（キクラゲ・シイタケ）の培地
  - ※従来は商業生産が不可能とされていた針葉樹を培地としたキクラゲ等の生産技術を確立（県内のヒノキ等を活用） 道の駅や病院等で販売



キクラゲ発生状況



乾燥キクラゲ

## 2. 平成26年度実績

- 産学官連携によるバイオマス利活用技術の開発
  - ・ウッドプラスチック製フラワーベース
    - ※加工しやすいウッドプラスチック材料を開発（木質～20%）
    - 木を混ぜることで、従来のプラスチック製品とは異なる新しい手触り・触感（テクスチャ）を付与



ウッドプラスチック製フラワーベース

- 県内外の大学、公設試験研究機関等の「知」を結集し、バイオマスの高度利用に関する事業化を見据えた新用途開発の先導的研究
  - ・おかやまバイオマスイノベーション創造センター（OBICC）
    - 開設 平成23年2月
    - 場所 おかやまリサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）内

- 産学官連携組織「岡山バイオマスプラスチック研究会」を運営し、セミナーやビジネスマッチング等を行い、事業化を推進
  - ・岡山バイオマスプラスチック研究会
  - 設 立 平成16年5月
  - 会 員 96機関（企業70、研究機関12、関係機関14）
  - 開催回数 年2回（8月、10月）

**【関連のページ】**

おokayamaグリーンバイオ・プロジェクト

URL : <http://www.pref.okayama.jp/sangyo/sangyo/greenbio/>

**担当部署**

産業労働部 産業振興課 新産業推進班